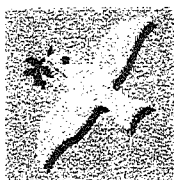


# 大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607 京都市山科区大宅山田町 34 京都橋女子大学図書館 田北十生気付  
(Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

## 京都支部メーリングリスト開設！



メーリングリスト名称

### ゆりかもめ

メーリングリスト アドレス

[yurikamome@kuee.kyoto-u.ac.jp](mailto:yurikamome@kuee.kyoto-u.ac.jp)

開設日 1998年4月1日(水)

### 参加者申込受付中

申込先 → [djdonkai@kuee.kyoto-u.ac.jp](mailto:djdonkai@kuee.kyoto-u.ac.jp)

申込方法 → E-mail で上記アドレス宛に貴方の所属支部名と氏名（ペンネーム可）を事前に登録して下さい。

「ゆりかもめ」は大図研の会員であれば、どなたでも登録すれば参加できます。ふるって参加されますようご案内申し上げます。

#### <運営の約束事>

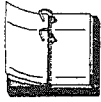
- ①参加者は大図研の会員であることが条件です。（京都支部以外の会員も可）
- ②参加者のリストの公開はいたしません。
- ③メールにファイルを添付する事は禁止します。
- ④メール内容の限定はありませんが公序良俗に反しないこと、また、ネチケットを守って下さい。
- ⑤表題の規制はありませんので、忘れずに自由に付けて下さい。

⑥内容も自由です。支部委員会のこと、こぼれ話、研究活動などへの要望、近況報告、役立ち情報、おもしろ情報、助け合い運動、探し物、教えて下さい等会員の親睦と交流を盛んにすることがこのメーリングリストの役割です。

目次	京都支部メーリングリスト開設…… 1頁 研究集会 ただいま準備中……… 2頁 研究集会打ち合わせまとめ……… 3頁 第6回支部委員会の報告……… 4頁 連載小説（5）リュウ……… 5頁 数珠つなぎ（25）……… 6頁
----	---

支部報に関するご意見は最寄の支部委員または編集気付（京都橋女子大学  
☎ 075-574-4118 FAX 075-574-4124  
♥ kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp）田北まで

# 研究集会 ただいま準備中



大図研部

現在、京都支部委員会では6月20日の研究集会の内容について議論を重ねています。昨年の研究集会では「人」に焦点をあげたので、今年は「仕事」に焦点をあてようという方針のもとでどんなテーマがいいのか話し合いました。「電子図書館」「図書館サービスの無料原則」「アウトソーシング」「図書館職員からみた図書館教育のあり方」「図書館職員の高齢化」「障害者サービス」「知的自由とプライバシー」「資料廃棄とスペース問題」などいろいろ出てきましたが、最終的には「図書館システム構築の諸問題」(仮題)というテーマに落ち着きました。

大学図書館をめぐる状況について考える場合、避けて通ることのできないテーマですので、初めてシステムを導入するにせよ、従来のシステムを更新するにせよ、おそらくどの大学図書館にとっても関心をもってもらえるのではないかということで決まりました。ただ過去に同じようなテーマでいろいろな集会在もたれていますので、掘り下げた議論により新しい局面が切り開ければと考えています。

そこで実際にシステム構築にたずさわっている人から話を聞くことにし、いろいろつっこんだ質問をして、おおよその輪郭をつかもうとしました。そこでの議論の中で次のような意見が出ました。組織としてシステム構築にとりくみ、成功に導くためには、共同でつくりあげる過程に学ぶという基本的視点が大事である。全員が関心を持てるように積極的にまきこんでいかないと作業が進まない。又①強力なリーダーシップを持つ者の存在と②全関係者の意見・経験の交流、交情報公開の徹底と、③きめ細かな連絡体制の必要性があげられました。内容に関してはこれから詰めていきますが、職場で実務上いろいろな問題に直面している方にできるだけこたえられるような集会にしてゆきたいと思います。最終的にどのようなものになるかは、今後の支部委員会での討議の進展によりますが、集會に至るまでの準備作業を大事にして集會を実りあるものにしたいと考えています。

(おおだて かずお 京都学園大学図書館)

## 大図研京都支部 研究集会の日程

日時 6月20日(土) 12:30~17:00  
 会場 京大会館  
 内容 検討中(京大図書館新システムの取り組みについて)  
 関連記事を5月まで連載しますので、注目を!

# 研究集会打ち合わせまとめ

1998.2.26 (木) 同志社大学 1 F 読書室 (午後 7 時 ~ 10 時)

出席: 沢居、篠原、竹本、堤、田北、井上、呑海、大館

## 目録WG (ワーキンググループ) の経緯をととしての経過と総括

### 1. 基本的視点

- ・全学的共同作業と自己教育の場

### 2. 新システム導入の経過と今後の稼働スケジュール

- ・いちばん最初はどういうふうにしたか

- ① 第1次WG: 京大仕様書の作成
- ② 第2次WG: 準備作業の具体化と工夫

1997年

5月 第1回WG全体会議 (全WG) 60名

6月 5日 目録連絡担当者の推薦依頼

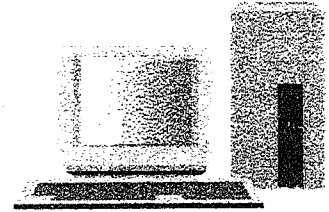
7月30日 第1回目録連絡担当者交流会

9月29日 第2回目録連絡担当者交流会

12月10日 全体説明会

1998年

2月17日 第3回目録連絡担当者交流会



### 3. 組織としていかにシステム構築にとりくんできたか

- ・各WGが業務単位のシステムをそれぞれ構築する。  
 図書受入、雑誌受入、目録 (12名 コアメンバーは4・5名)、相互利用、  
 電子図書館情報管理、利用者サービス
- ・システム全体を把握している者がいない。
- ・調整グループでの全体把握はなされているのか?
- ・部課長がタッチしていないので、自由にやれた。
- ・担当者の創意工夫が生かされた。
- ・実質、係長がやっている。
- ・末端管理職のあり方が問われている。
- ・附属図書館商議会 (教授会に相当する教員、評議員などが構成員) の役割
- ・月2回の係長会議
- ・係長等事務連絡会議 □ 全学的な意見の連絡パイプ
- ・部局事務連絡会議
- ・部局VS附属図書館  
 対立と共同作業

#### 4. 目録ワーキンググループの場合、なぜうまく作業が進んだのか

- ・準備作業を工夫し、情報公開を徹底した。
- ①事態の進行状況を全関係者に知らせ、②意見・経験の交流をはかり、③課題の整理と方針提起を適切におこなうために
- ・あらゆる連絡手段（文書、電話、メール、連絡用ホームページ）を積極的に活用した。
  - \*メールを多く感じるか、少なく感じるか人によって様々である。
  - \*メールによって情報の検索はできないが、一覧はできる。
  - \*端末が配られてもメールを見る習慣のない人がある。
  - \*たえずメールの活用状況をチェックし利用を促す。
  - \*メーリングリストが威力を発揮するまでは大量の文書を配布した。
  - \*どうやって連絡用ホームページをのぞかせるか。
  - \*一人職場からの反応が機敏。
  - \*一人職場で対応しきれないとき、教員にたよる。
- ・誰でも参加できる交流会
- ・研修の重視
  - \*マニュアルは富士通が用意する。

#### 5. システム構築の実際

- ・アウトラインは京大仕様としてすでにできていた。
- ・実際の作業は京大仕様（入札の要求書）の具体化
- ・京大仕様の決定過程（2年かけてつくった）が重要
  - 受けとめる側に機械的な知識がない。つくるときに各部局の要求が反映されているのか
- ・過程に学ぶという視点が重要
  - 日々新しいシステムがオンラインで変わりつつある。
  - 職場におけるシステム管理を学部として確立しなければいけない。
- ・附属図書館と富士通の関係が基本かどうか
  - コード問題が部局とかがわる（旧コードのままになっている）
  - 部局との関係でどういう合意形成をおこなったか
- ・これからの作業
  - 標準版にたいする各部局・教室独自のカスタマイズ（個別化）

### 第6回支部委員会の報告

#### 【報告事項】

(1)財政状況 97会費納入者 75名、未納者は納入を！

#### 【審議事項】

(1)支部報について（3～5月号編集記事について）

(2)1998年度研究集会について

(3)京都支部のメーリングリスト開設について

(4)次回支部委員会 4月7日（火）

参加者 齋原、竹本、大館、中嶋、田北



## リ ュ ウ

作 西田 治

残業で帰宅が10時頃になった。家に着くと玄関横に可愛い犬小屋が置いてあった。リュウが首から先だけ出して気持ちよさそうに寝そべっていた。

圭子から犬小屋の話は聞いてなかったなあと思いながら、家に入った。圭子が待ってたように「犬小屋注文したの？」と聴いた。「僕は知らないよ。君が注文したんじゃないの？」という。「私がする分けないでしょ」という。漫画を読んでいた美穂が「お母さんはしない！」と横から口を挟んだ。「あんたは黙ってなさい」と圭子は美穂に言う。「淳一か？」

「あの子がそんなこと出来る分けないでしょう」

「おに一ちゃんはしない！」とまた美穂がいう。

「美穂、お前知ってんのか？」

「知らない」

「あんたじゃないとすると、これどうゆうこと？」

「それは僕が聴きたいよ」

家族4人が頭をつきあわせて考えたけど、なぜ突然犬小屋が出現したのかは、全く分からなかった。

その日曜日、我が家の遅い朝食の最中に、玄関のベルがなった。圭子が返事をしながら玄関にでた。中年の女性がなにかしきりに圭子に話していて、圭子は盛んに謝っている様子だった。

玄関の戸が閉まる音がすると圭子が足音を荒げて居間に帰ってきた。

「本当に！もう！」とうなっている。

「なんだったんだ？」

「リュウの奴よ！」

「リュウがどうかしたのか？」

「向かいの石原さんがあの犬小屋買ってくれたんだって！何かお礼しなきゃ」

「へえー！何でまた？」

「リュウが寒そうにしてて可哀想だからって。それだけじゃないのよ。2軒隣の岡田さんの娘さんが昼間リュウを散歩させてくれてるんだってよ」

実は我が家では、昼間誰もいないのである。私と圭子は、会社だし、淳一は放課後、学童保育園だし、美穂は保育園だった。

「まだあるのよ、石原さんが毎日リュウに餌をやってるんだって。口が肥えてドッグフードなんか食べられるかって訳よ。小屋の掃除まで毎日して貰ってるんだって。一体誰の犬よ。もっと可愛がってやるよう息子さんに言って下さいだって！」

圭子はテーブルを叩いて、私に向かって怒鳴った。

(次号に続く)

